

通信計測事業

5Gの最先端技術で通信ネットワークの高度化を実現し、 社会基盤の拡充に貢献

～5Gが目指す新しい社会に向けた取り組みを加速～

5Gの実用化で無線領域の高速化と大容量化が実現できる今、居住地に関係なく誰もが高度なサービスを受けられる環境の整備が可能となりました。コロナ禍においてインターネットの重要性が改めて認識され、5Gは「新しい生活様式」を支えるインフラとしてさらなる発展が見込まれています。

アンリツの通信計測事業は高度な通信技術の確立や普及に不可欠な測定システムをグローバルな市場に提供しています。お客さまのパートナーとして、5Gをはじめとする情報通信の発展に寄与するべく、通信技術の新しい応用・活用領域でのテストソリューションを創出し、通信社会の課題解決に向けた取り組みを加速していきます。

事業領域

アンリツは創業以来、情報通信の未来を切り開くイノベーションを起こし、オリジナルでハイレベルな製品を社会に送り出すことで、通信技術の進化に貢献してきました。通信計測事業は通信ネットワークインフラの中核となる通信設備・機器の品質保証に不可欠な測定器群およびシステムを世界中のお客さまに提供しています。

- ・スマートフォンに代表されるモバイル通信市場で、チップセット開発、デバイス開発、国際規格適合試験、製造検査に至る全フェーズ用のテストソリューションを提供。
- ・IoT化する自動車、家電および産業用設備に搭載される通信モジュールのコネクティビティ品質の評価や保証に必要な測定器およびシステムを開発用、製造検査用に提供。
- ・データセンターからインターネットを介して高精細な映像や画像を高速で提供するために使用されるネットワークデバイスの性能評価および製造検査用の測定器を提供。
- ・モバイルネットワークを構成する基地局をはじめとする各種通信装置・機器の製造や建設保守用の測定器を有線・無線の領域にわたって幅広く提供。
- ・通信事業者のネットワーク稼働状況を可視化し、障害分析や容量拡充といったネットワークオペレーションの向上に貢献するモニタリングソリューションを提供。

取締役 常務執行役員
通信計測カンパニープレジデント

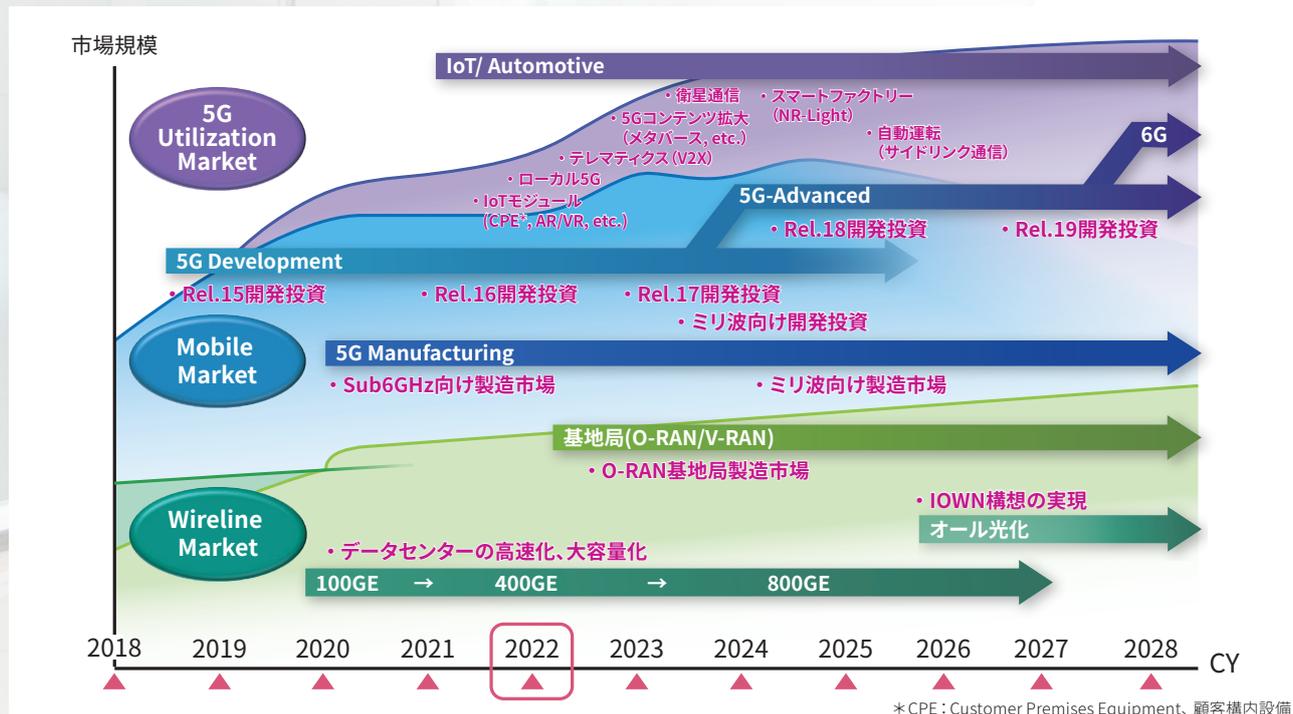
島 岳史



市場環境と事業機会

2019年に韓国と米国で始まった5Gサービスですが、規模の違いはあるものの、85カ国で213の5G商用網が提供されています(昨年は68カ国、143の5G商用網)。加入者数も昨年は中国を筆頭に世界で2億2,000~3,000万人でしたが、この1年間で6億6,000万人まで増加しました(2022年2月末“Ericsson Mobility Report Q4 Update February 2022”および“GSA 5月版”)。通信サービスの重要性は人類が直面した新型コロナウイルスという世界的な困難の中でより高まりました。従来は対面型が前提であった多くの販売、サービスの提供が通信を利用したものに変わり、5Gはその新しい生活形態を支えるインフラ基盤としての発展が求められています。5Gが使われる分野は広がりを見せてきており、ローカル5G/プライベート5Gといった公共ネットワークではないサービスが立ち上がりつつあります。このようなサービスに機器や乗り物の遠隔操作が加わり、5G利活用の世界が広がっていくと考えられます。メタバースの登場により、このようなリモート型の社会活動(非対面経済)の実現が現実味を帯びてきました。今後は、最先端のデバイスを使って高精細な映像・画像情報を高速通信で遅延なく送るために、ネットワークの接続性を担保する品質保証の仕組みを構築する測定ニーズが高まると予想しています。

II 通信計測事業：計測市場トレンドと事業機会



成長戦略

2021年度の成果

GLP2023の初年度である2021年度は売上高733億円、営業利益率21%となり、当初の目標に届かない結果となりました。米国でのCバンドネットワーク敷設開始の遅延のほか、3月後半に中国で始まったロックダウンや半導体を中心とした部材入手難が大きく影響しました。

しかしながら、そのような状況下でも先端技術開発を進める世界中のお客さまとの協業を継続・発展させることができたことは2023年度に向けた取り組みを加速させる上で大きな成果でした。2020年度に引き続き、新型コロナウイルスにより活動を一部制限されましたが、平時とほぼ同等の日程で開発計画を進めることができ、MT8000A (ラジオ コミュニケーション テストステーション) をプラットフォームとした基地局用テストシステムを上市したほか、5Gと400GEの各既存ソリューションについても最新機能を追加リリースし、お客さまの最先端のニーズに対応しました。また、6G用ソリューションの初期開発もスタートさせました。

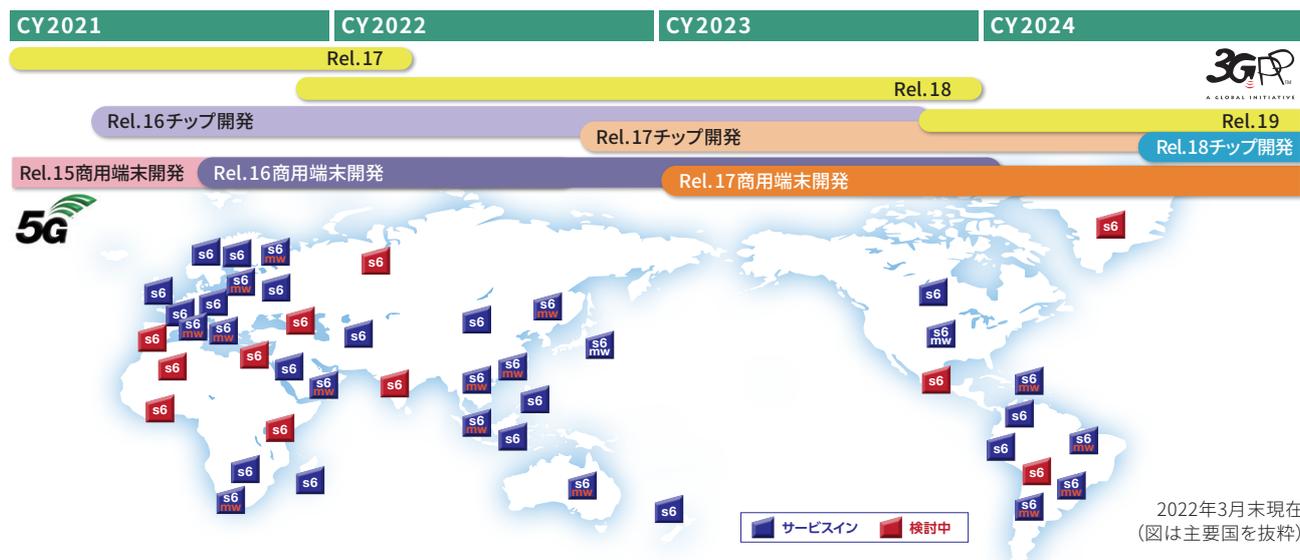
GLP2023への取り組み

GLP2023では売上高1,000億円、営業利益率23%というターゲットを設定し、大きく事業を成長させる予定です。

通信計測事業

5Gサービスのロードマップ

*出所：一般公開情報を参考に当社作成



「5Gで構築される通信社会を支えるリーディングカンパニーになる」というビジョンのもと、2023年の5Gスマホ関連事業のピークに向けた取り組みを加速させるとともに、5Gがさらに発展する分野、もしくは5Gから派生する分野での事業領域の拡大を目指します。以下の3つの基本方針を堅持し、通信技術を利用して事業を展開する幅広いお客さまに貢献できるソリューションづくりに邁進していきます。そのために、業界各社との協業はもとより、「共創」に向けた取り組みに重点を置いた活動を進めています。

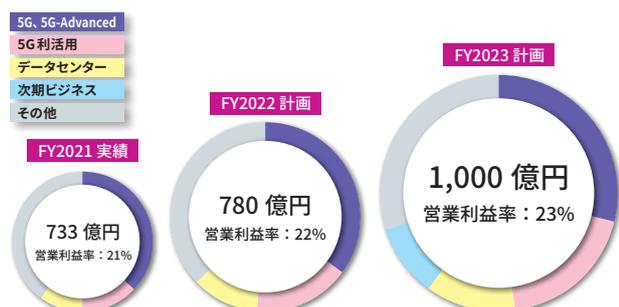
- (1) 5G利活用分野とネットワークインフラ市場での事業比率を上げる。
- (2) 「測る」ツール提供型ソリューションから「測って解決する」価値提供型ソリューションへの変革を進める。
- (3) 成長分野（5G-Advanced、自動運転、O-RAN/IOWN）への投資を拡大する。

3つの基本方針の中では、とりわけ「測って解決する」価値提供型ソリューションへの変革を重視しており、チャレンジングな目標と認識しています。5Gの活用の裾野が広がる中で、通信技術に長けたチップセット、スマホメーカーではないお客さまが増えてきています。このようなお客さまは通信を使ってどのような事業を展開するかということを課題として取り組んでおり、通信技術そのものを取り組み課題としているわけではありません。当社は測定で得られる結果をどのように使って、これらのお客さまの事業に貢献できるかを考え、新しい価値へと変換していかなければなりません。この価値を生み出すための取り組みをIoT、自動車、O-RANおよびローカル5G/プライベート5Gに関わるお客さまやパートナー企業との協業・共創を通じて進めています。その過程で得られる新しいニーズや知見を当社の強みである高度で正確な測定技術に加えることで通信サービスの幅が広がり、より高度な社会基盤が確立できるような貢献をしていきます。

通信計測事業：GLP2023売上高・営業利益率計画

2022年度の取り組み

- ・欧米市場の5G需要獲得
- ・アジア・北米市場の5G IoT/自動車市場の顧客開拓
- ・O-RAN・6G向けなど、次期ビジネスの足掛かり確保



人財の採用・育成について

当社はオリジナル&ハイレベルという不変の理念を持っており、ソリューション開発から製造・販売に至るまで、その理念に見合った優れた人財を幅広くかつグローバルに採用し、育成に努めています。開発拠点は米国・英国のほか、アジア地域にもあり、ソフトウェアを中心とした開発を複数の国で行っています。エンジニアについては、開発の本国である日本での研修を入念に行った上でそれぞれの拠点に配置しています。本社の方針に基づいた一貫通貫の考えのもと、各国の文化や環境などの特性を加味して、開発を分担する体制と

なっています。製造と販売についてもグローバルな研修や会議、相互の人事交流を通じて人材の育成を行うと同時に、グローバル企業としてのガバナンス強化を図っています。開発やマーケティングに従事する女性社員も増えており、全社員のキャリアアップの仕組みをさらに発展させていきます。

知的資本の蓄積、外部団体への参加について

当社は開発で得た技術の特許獲得だけでなく各種の外部団体へも加盟しており、新技術の獲得に注力しています。現在は、モバイルの通信規格を決める3GPP (Third Generation Partnership Project) に所属するほか、代表的なものとして以下の団体に加盟しています(標準化活動として当社ホームページで全加盟団体を紹介しています)。

1. 次世代モバイル通信のあり方を協議するNGMN Alliance (Next Generation Mobile Networks Alliance)
2. Wi-FiやEthernetなどの規格を策定するIEEE (Institute of Electrical and Electronics Engineers publications) の下部組織(Wi-FiやEthernetの標準化活動に参画)
3. 5G通信のネットワークのインテリジェント化と機器のオープンインターフェース仕様を策定するO-RAN Alliance (Open Radio Access Network Alliance)
4. オール光ネットワーク、エッジ、無線分散コンピューティングから構成される新しい通信基盤を検討するIOWN (Innovative Optical and Wireless Network) Global Forum

通信計測カンパニーが取り組むSDGs

注目されているメタバースによる社会活動や自動運転サービスの実現のためには多くの技術革新が求められます。これらの分野に対する当社のオリジナルでハイレベルな製品による付加価値の提供はSDGsの目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」に合致しています。また、IoTによる利活用を含めた5Gでの事業拡大を通じて目標11「住み続けられるまちづくりを」への貢献度を上げていきたいと考えます。近年、自然災害、疫病、人類の高齢化など解決すべき社会課題が増加しています。5Gをはじめとする通信ネットワークの高度化はこれらの課題を解決するツールとして認識されてきています。さらに高速・大容量、超低遅延、多数同時接続という特徴を持つ5Gは医療、農業、自動車、防災などの産業分野で活用されることで、情報格差、交通事故防止、労働者不足といった問題を解決することが期待されています。

当社の通信計測技術は通信の高度化と高品質化を支えることでより良く便利な社会づくりに貢献しています。5Gのみならず保有する技術を最大限活用し、アンリツグループで取り組む「社会のサステナビリティ実現」のための活動の一翼を担っていきます。

